

I 青果情報

1 7月下旬～8月中旬の経過

気 象	7月下旬は、旬前半に梅雨前線が東北地方から北陸地方付近に停滞し、後半は北日本や北陸地方が低気圧や前線の影響を受けやすかった。そのため、旬降水量は東日本日本海側及び北日本で平年より多くなった。また、偏西風の影響で高気圧に覆われて晴れやすかった東・西日本、沖縄・奄美は旬平均気温が平年より高かった。 8月に入ると、上旬と中旬にそれぞれ台風が列島に接近し、影響を及ぼした。特に、中旬は台風15号により関東甲信地方の大気の状態が非常に不安定となり、「令和8年8月千葉豪雨」につながる線状降水帯が発生し、東日本太平洋側の降水量は平年よりかなり多くなった。旬平均気温は、上旬は北日本を除いて平年より高くなり、中旬は北日本で平年より高くなった。
-----	---

野菜類

入荷量	「キャベツ類」「レタス類」「たまねぎ」を中心に入荷。 東北・北海道の産地で7月から続く曇雨天や低温の影響を受ける一方、高冷地では高温・干ばつによる生育の遅れや数量減が目立ち、「だいこん」「トマト」「きゅうり」「えだまめ」などは不足感が続き、引き合いが強かった。 台風15号の影響等もあったが、盆明け以降は降雨で干ばつが解消され、「ほうれんそう」「こまつ菜」等で入荷量の回復がみられた。 野菜全体では、7月下旬から8月中旬までの入荷量は100,495t（前年比101.3%）と少なかった前年並であった。
相 場	東北・北海道の産地の曇雨天や低温の影響、高冷地での高温・干ばつの影響から「だいこん」「トマト」「きゅうり」など数量不足が続き、盆前は全体的に品薄から高値となった。特に「トマト」はその後も東北・北海道産の着果不良や群馬県産の裂果被害等から不足感が続き、盆後も高値で推移した。一方、「ピーマン」は入荷量に伴う販売鈍化から相場は軟化した。 野菜全体では、7月下旬から8月中旬までの価格は325円/kg（前年比108.1%）と前年をかなり上回り、3年連続の高値傾向となった。

果実類

入荷量	「すいか類」「日本なし類」「もも類」を中心に入荷。 「幸水」を中心に「日本なし類」の入荷が7月末から8月上旬にかけて集中し、前年を大幅に上回る入荷量となった。「もも類」についても福島県産の作柄が良く、前年を上回る入荷量が続いた。 果実全体では、7月下旬から8月中旬までの入荷量は32,017t（前年比108.2%）と前年をかなり上回った。
相 場	販売金額は「ぶどう類」「もも類」「日本なし類」の順に大きかった。 「日本なし類」は荷物が集中した結果、盆前の需要を上回り荷動きが鈍化、安値となり盆明け後にも一部影響が残った。「もも類」も前年を上回る入荷となったことから荷動きは伸び悩み、軟調な販売で推移した。 果実全体では、7月下旬から8月中旬までの価格は599円/kg（前年比96.8%）と高値となった前年をやや下回った。